

舞台をより良く運営するために

美幌町教育委員会

社会教育グループ文化振興担当

ご来場いただくお客様にとって、より良い舞台を作るためには、利用団体様とびほーるスタッフの連携・チームワークが不可欠です。

1. 舞台の指示系統

利 用 種 別	ステージ利用団体等	びほーるスタッフ（従事者）
一般的な舞台利用	利用団体会員 ↔ 代表者（舞台責任者）	舞台監督 ↔ 舞台・照明・音響担当者
鑑賞事業① （一般的例）	出演者・マネージャー・舞台監督 ↔ 音響照明業者 ↗ 企画会社	舞台技術担当 文化振興担当
鑑賞事業②	出演者・マネージャー・舞台監督	舞台・照明・音響担当者

①びほーるスタッフは上記のラインにより従事します。

会員個々や会場のお客様からの指示は混乱の元となります。芸術文化は人それぞれに感じ方が違うものであり、個人の尺度もその時々で異なるものです。それが故にチームで組織的に舞台を完成させていくことが必要です。その舞台の責任者は利用団体様であり、各操作担当は微調整以外には勝手に作業を行いませんので、ご理解と協力をお願いします。

びほーるスタッフは各役割の重要さを肝に銘じて従事します。

②びほーるスタッフから関係者にアドバイスがある場合があります。

③鑑賞事業は様々なパターンがあります。

2. 事業当日までの流れ

事業実施にあたっては、利用団体様とびほーるスタッフとの綿密な打ち合わせが必要です。どのような場合であっても、舞台使用に「ぶっつけ本番」はありません。客席の皆様が普通に見えて普通に聞ける条件を整えるため、最低でも次の流れは踏んで下さい。（事前準備は当日の舞台に大きな影響があります）

1) 事前打ち合わせ 最低でも事業日の1週間前には来館され、びほーるスタッフと打ち合わせをお願いします。その際には以下のもの（考えでも可）をご準備下さい。

プログラム、リハ・本番の行程、本番の台本（大ざっぱでも可）、舞台配置、看板の有無、使用物品、場面のイメージ（全体の雰囲気、曲のイメージ）、リクエストなど

2) リハーサル 特に前日のリハは、本番を迎えるにあたり、極めて重要な過程となります。リハは隠れていた問題を表面化させて改善できたり、ステージを自分のイメージに近づけるものであり、何よりもびほーるスタッフに流れやイメージを伝える唯一の機会です。

す。MCのタイミングやアンコールへの入り方等も含め、舞台のスムーズな進行のために、ゲネプロ（通しリハ）の実施もお願いします。

また、当日の本番前にもリハを行われると思いますが、リハ終了から開場までに1時間程度の調整時間が必要ですのでご配慮下さい。

間違いのない舞台とするため、以下のものをご準備下さい。

本番の台本(舞台用・音響用・照明用)
※各係用の台本が準備できなくても、MC原稿や人の動きが入った全体用の台本をご準備願います。

3. お客様にとって素晴らしい事業とするために

ホールに来られるお客様は、自宅から出たとき（チケットを購入したとき）から舞台がスタートしています。主催者側は、貴重な時間とお金を出して来てくれるお客様に、それ以上のものを舞台からお返ししなければなりません。舞台上は創造的空間であり、そこから発信するものはまさに芸術文化です。お客様にとって、そして舞台に立つ皆様にとって、より素晴らしい事業となるよう、以下のことにご留意下さい。

1) ギャラリーでの注意事項

①出演者はびほ一る玄関をお客様と一緒に使用しない

いくら舞台に素敵な衣装や凛々しい姿で登場しても、その前に普段着で出演者がお客様と会っていると…ましてや舞台衣装で出演前にお客様にそれを見せると…言うまでもありません。時間をずらす、もしくは違う玄関を使う等の配慮が必要です。

②ギャラリーと楽屋の間の扉は極力使わない

バックスペースをお客様に見られることは極力避けて下さい。

2) 舞台袖の注意事項

①大きな音を立てない

舞台袖での物音・声が客席に聞こえると、せっかくの舞台が台無しになってしまいます。入口の扉・足音・話し声等、すべての音にデリケートになるようお願いいたします。

②見切れない（出演者以外が出演しない）

出演者以外の方が、舞台袖から客席の様子を見る光景をよく見かけますが、これは間違いなくお客様からもその人が見えています。また、不用意に舞台袖を歩くことで、人影がお客様に見えてしまうこともあります。見えた瞬間、そのお客様は現実の世界に引き戻されます。

3) 舞台での注意事項

①客入り（開場）から客ハケ（退場）までが本番です

開場してお客様が入場されてからは、緞帳未使用時には舞台上に出ないで下さい。また、舞台が終わってお客様がまだ客席にいるにも関わらず、舞台上を片付ける様子を見かけるときがあります。本番はお客様が完全に客席から退場し、客席扉が閉まって終了となりますので、開場時同様、舞台上には出ないで下さい。不都合がある場合は、舞台責任者が舞台監督に相談して下さい。（必要な場合は舞台スタッフが動きます）

②幕（音響反射板）には絶対に触らない

- a. 幕には後ろの白い「ホリゾン幕」や黒い「バック幕」、舞台を仕切る黒い「中割幕」、舞台袖の黒い「袖幕」等がありますが、すべて1枚幕で高価なものです。触ることにより油が付着し、変色やカビが発生してもすぐ交換できるものではありません。また、音響反射板も同様で、一カ所の変色によって全面を塗布しなければならない事態となります。
- b. 幕が揺れるとお客様は「幕が揺れている」という現実に戻されます。

③マイクを叩かない

マイクのON・OFF確認のため、マイクを叩く方がいます。叩く振動はアンプやスピーカー（精密機械）に重大なダメージを与え、破損する危険があります。これらの破損はその舞台だけではなく、その後の使用にも大きな影響を与えることとなりますので、絶対に叩かないで下さい。

マイクのON・OFFは音響担当者と舞台担当者が責任を持って操作します。

④決められた場所に立って下さい。

出演者の立ち位置はリハにより決められ、その場所には印（バミリ）が付けられます。照明はそこに立つことを前提に仕込まれます。出演者様はバミリの後ろに立つのではなく、バミリの上に立つようにお願いします。（本番中に照明は位置調整しません）

4) その他

①カセットテープよりCDかMDを準備して下さい

音響操作上、カセットテープは音質・巻き込み事故・劣化・頭出しの確認等でリスクが非常に高いです。より間違いなく音楽を流すために、カセットテープは極力避け、CDもしくはMDの準備をお願いします。

②本年5月1日よりギャラリーでの飲食を可能とします。ただし、これはホール利用の延長線上でのギャラリー使用に限ります。ゴミはすべて持ち帰りとなり利用者様の対応を条件としますので、ご対応をよろしくお願いします。

③挨拶から始まり挨拶で終わる舞台にしましょう

あいさつはすべての面で基本となるものであり、物事のけじめとなるものでもあります。舞台入りの際には挨拶を交わし、お互い気持ちよくステージに臨みましょう。また、びほ一るスタッフが舞台上の撤収作業をしていると、気づいたら利用者様が誰もいないということが、ごく稀にあります。お帰りの際には「お疲れ様でした」「先に帰ります」等で締め、一つのけじめをつけることが大切です。

何度も記載しましたが、舞台はチームで創るものです。利用される皆様とびほ一るスタッフの信頼関係をさらに高めるため、言葉や態度も含めお互いを気遣い合いながら、美幌町の文化を高めて参りたいと思います。

私たちびほ一るスタッフも、本町の文化振興のため日々研鑽・精進いたしますので、利用される皆様も、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。